

知恵の樹

No. 117 2007. 2. 22

町田の図書館活動を
すすめる会

事務局: 町田市森野 3-1-12 増山方
〒194-0022 FAX042-722-1243

「手をつなぎ 一人ひとりが輝こう！」

まちだ男女平等フェスティバル実行委員会委員長 西村 絢子

私たちの住んでいる町田市には「男女平等参画都市宣言」のあることをご存知でしたか。

実は2001(平成13)年2月1日の市制記念日に、市は市民の要望のもと、この宣言をしているので



す。このことを記念して、毎年、2月1日前後の土・日曜日に

「まちだ男女平等フェスティバル」が、町田市民フォーラムで開かれています。そして今年2007年は2月3日・4日の両日、第7回フェスティバルが開催され、両日も晴天に恵まれたこともあって、多くの市民の方が会場に参加してくださいました。その時のテーマが上に掲げた「手をつなぎ 一人ひとりが輝こう！」です。

このフェスティバルの主催は、市民フォーラム内にある町田市の「男女平等推進センター」に登録されている44団体が中心になってつくる実行委員会です。そして、「男女平等推進センター」は共催です。

登録団体は共に町田市の男女平等推進を進めようとする大きな点では一致しているものの細かな見解の違いはあるため、実行委員会方式で皆の話し合いを積み重ね、理解し合い高め協力しなが

ら、このフェスティバルを作り上げていくのです。「まちだ語り手の会」もこの登録団体のひとつであり、実行委員会メンバーとして、この作業に加わっています。

2月3日・4日のフェスティバル当日の会場では、講演・発表・講習・体験・展示・交流 などさまざまな活動が展開されました。「まちだ語り手の会」は、例年、「展示」と「おはなし会」で参加されています。今年も「展示」は、小学校でのおはなし会など日頃の活動を写真付きで発表されていて、その活発な活動ぶりが、同じくそこに掲示の統計グラフからも理解できました。和室を会場とした「おはなし会」(写真参照)では 巧みな話術の語り方で、参加の方たちを物語の世界へと引き込んでいました。私たちは、ワクワクや元気ややさしさを物語の世界からもらいました。

私は町田のフェスティバルの特徴は 市民と行政が協力しながら作り上げていることと実行委員会方式で話し合いを重ねていることにあると思っています。このことによって市民の輪(和)が広がっていきます。

フェスティバルも7回を重ね、男性の参加が多くなってきていることを実感しています。今回のフェスティバルも平等な立場で男性と女性が協力して出来上がったものです。テーマに込められた未来社会の先取りがこのフェスティバルから生まれているようにも思えます。

病院患者図書館が欲しい！

2, 3, 4 p 会報と異なる

於: 町田市民文学館 ことばらんど 大会議室 2007.1.20

講師 菊池 佑氏 主催 町田の図書館活動をすすめる会

講演

自己紹介 病院患者図書館協議会会長
病院図書館の研究と設置運動に 30 年係わる。
2002 年静岡県立ガンセンター患者図書館「あすなろ図書館」開設に準備から参加し専任司書として勤務した。現在「Web 患者図書館」を主宰
全国に患者情報室、病院図書館は数多くあるが、本格的な患者図書館はその後一館しか設置されていないのが現状である。

病院図書館の歴史

病院は宗教とリンクして発展してきた。ヨーロッパでは宗教団体の経営する病院内に牧師や神父が病人を慰める仕事にかかわり、宗教書や文学書を貸し出した。

戦争と図書

20 世紀初頭のアフリカ・ボア戦争で傷病兵に本を贈った。第1次世界大戦中イギリスは戦時下図書館を開設した。第2次世界大戦では、イギリス赤十字社が活動し、戦地に本を送った。日本に於いて、そのようなことは行われ無かった。

精神医学と図書

1930 年アメリカのメンジャーによる、読書療法に価値が認められた。闘病記、文学書など、本の主人公との物語の中で行動を共に(自己同一化)するうちにストレスの解消、浄化(カタルシス)、自分を客観視するゆとり(洞察)が生まれた。しかし、目に見える効果は医療品が勝り限界も見えた。

患者の医療情報アクセス権

1960 年代アメリカでラルフオーターの消費者保護運動から発し、1970 年代には患者の権利章典ができた。患者は医療消費者であり医療者は医療の生産者だ。立場が違うと情報の価値も異なる。患者の視点で必要な文献情報を集めてサービスすることが当然とされてきた。1990 年代にはインフォームド・コンセントとセカンドオピニオンの普及で医療の素人である患者が情報を集めるために図書館の存在が大きくクローズアップされた。

患者図書館とは

病院は治療のミニ共同体である。図書館は教育文

化の施設として医療情報を提供する場、文献の収集と保管は基より利用者に文献の探し方を教える。質問を受けたときは、文献の紹介などを行う。医療サービスの一環として患者と医療者の違い情報格差の是正に努める。心身医療、全人的医療、患者本位の医療を求め、常に新しい情報を提供しなければならない。

病院図書館の司書

病院図書館に勤務する司書は通常1人であるが、それさえ居ないところも多々ある。病院図書館には資料提供のプロ・司書が絶対必要だ。更に基本的な医療知識も身に付けなければ患者の信頼を得られない。部屋に医学書を並べボランティアを置けば良いと言うものではない。

Web 患者図書館

患者図書館に勤務する司書は、本、雑誌の受け入れ、新聞の切り抜きファイル作成などなど業務量が多い。医学や医療技術は日進月歩。絶えず変化する情報に目を通し、より「旬」のものを提供するためには、データベース入力作業に膨大な時間と労力が必要になる。多忙な司書たちのためのデータベースWeb 患者図書館を作った。パソコンから、世界の医療情報にアクセスでき、患者の質問に答えられる文献を探し出すことができるが、それを探し出すのも専門性がなければできない。

患者図書館は、病院側の管理・運営よりも、公立図書館が関わってその専門性とネットワークを駆使し運営した方がずっと効率よく機能でき効果的である。

参加者・意見交換

主催者側から、市民病院第 2 期工事の平面図をスクリーンに写し、実施計画を説明。第 1 期工事終了後、既に機能・運営されている9F の食堂とラウンジの並びに130㎡のスペースで患者図書館は計画されていることを説明。

* 市民: 市民病院は不安を抱えた患者が一定期間生活する場所である。環境を整えるものの一つに図書館もある。聖路加病院患者図書館にある礼拝

堂は静かな空間で安心を得られる。図書館に専門司書が居て、医療の専門語を一般用語で解りやすく説明が聞ければなお良い。

* 議員:基本計画の中ではサルビア図書館の分室と位置付けられている。それが変更になったとの説明はまだ受けていない。

* 図書館職員:定員管理計画案に07年度の1名、08年度2名増加の要請を提出している。理事者側からできないとの返事がきている。病院側のボランティアで運営するとの回答に疑問をもっている。財源不足のおり資料購入の点からも国のネットワークを通して資料情報を得る方が合理的かと考える。

* 組合員:図書館部会を担当、組合の立場から変更になった動きに質問していく。組合員の中には

病院職員もいて別の要望も出ている。図書館側との話し合いが必要になるだろう。

* 市民 図書館とはどういうものかとの認識が、行政の上層部に欠けているのではないか。図書館を受験勉強の場と認識しているのではないか。図書館のネットワークは世界に開かれている。

* すすめる会 市議会で決まり実施計画にのりマスタープランにもつたものが市長の一声で変更になるこの現状に、議員から何の声も出ないのがおかしい。これで民主主義と言えるのでしょうか。実現に向けてどんな運動をしていけばいいのでしょうか。

* 議員:要望、陳情、請願、市長への手紙などを通して根気よく運動を続けて行こう

どうなる？ 市民病院の図書館機能

市立図書館の分館として市民病院内に設置が予定されてきた患者図書館が、市の予算措置で、市民病院主導の図書施設へ移行する気配が濃厚になった。これに対し、患者の安らぎや患者自身の病気への理解など患者図書館設立の重要性を訴える市民運動団体が反発を強めている。

緊急集会で講師を務めた日本病院患者図書館協会の菊池佑氏は患者図書館の必要性について次のように訴える。「インフォームド Consentなどの視点からも患者が十分な医学の知識を得る場が必要なことは明らか。予算が充分に取れるかもわからない(病院主導の)図書施設で、果たして患者に十分な情報を提供出来るのか」。専任司書の配置など、図書館法に則った「図書館」の設置以外に患者を満足させる機能の発揮は不可能だと主張する。また「図書館活動を続ける会」の関係者は「患者への情報提供以外にも、読書で得られる心の安らぎや患者やその家族のコミュニケーションの場としての機能などその役割は多岐に渡る」と患者図書館の必要性を強く訴える。

一方で市や市民病院の関係者は、患者図書館の重要性を認めた上で、図書館法に則ったいわゆる「図書館」ではなくとも、十分に患者やその家族などのニーズに対応した「図書施設」を設置することが出来ると主張。「インターネットの設置や人員配分など様々な工夫を凝らしてきた



い。具体的には今から計画を練り上げていく段階ですが、市民の方々とも協働し、出来る限りのことはやっていきます」と話す。また来年度完成予定の市民病院新館について、「図書施設だけではなく、緩和ケア病棟や緑豊かな庭園など、患者の心のケアや、安心の提供には特に配慮した施設が出来ると思います」と患者へのサポートの多面性を強調する。

患者図書館の設置を訴え、署名活動を続ける「図書館活動をすすめる会」は現在、市へ提出する要望書の準備を進めている。同会と市、双方の主張には折り合いのつかない部分も多いが、「もっとも大切なのは現場にいる患者さんやその周辺の人々の思い」と双方ともそれぞれの提案を続けていく構えのようだ。

定例会報告 1月28日(日) 10時半から 公民館にて

参加/市川 清水 谷釜 伴 水越
連続講座の締めと講師派遣制度利用講座をかねて3月末ごろに講演会を開く方向で検討。日時は3月24 or 31(土)の午後、中央図書館ホール。会員がそれぞれ読み集めたオススメ「図書館の出てくる本」の紹介もかねてする。2月中に詳細を決定後知らせることに。各自新刊オススメ本および「図書館の出てくる本」のリスト・コメントを作って3月はじめまでに水越宛送ることに。

*** 広瀬恒子氏講演会 (成瀬台中学校 PTA 主催)**

本との出あい ひろがる世界

1月17(水) 14:30~16:30 (成瀬台中学校図書館)

成瀬台中学校では4年前から全校での朝の十分間読書を実施していますが、読書の大切さが保護者にしっかり浸透しているとは言いがたいところです。そこで PTA 研修委員会主催で広瀬さんをお呼びしての保護者向け講演会を開くことになりました。当日は雨模様の肌寒い天気、ストーブを焚いているとはいえ夕方ともなると足元からしんと冷え込んでくる暖房ナシの図書館で、でも楽しいお話を聞いてココロはポッカポカとなりました。参加は教員・保護者・地域の方で24名。広瀬さん、ありがとうございました。ここに簡単にご報告します。

まずあるチラシを示して、そこに書かれたキャッチコピー「ぼんやりとした不安」から何の公告だと思いますかとの問いかけ。答えは不動産広告、芥川龍之介のことばが現在でも生き続けている、言葉の持続する力についての感銘を語られた。

さて今の子どもの「不安」とは、人と人との関わり方が急速に変化しつつあり『ツーン・ステップス』(梨屋アリエ)では子どもたちの表面的な付き合いとそれから外れてしまうことの不安感が描かれている。自分へはほとんどことなかだわろが他者への共感を持ちづらく、想像力の欠如がみられる。他者とのコミュニケーションを豊かにするには、豊かなことばを育てることが大切で、やはりそれを育てるのは、ものごとたりや本であると話された。

『けっしてそうではありません』(五味太郎)では常識を覆す設定がおもしろおかしく描かれ、日常からのワーブが可能になる。違った視点を持つことの大切さを味わうことができた。いま子どもの本は年間3000冊あまり、ヤングアダルト向けの絵本も増えている。例えば『ぜつぼうの濁点』(原田宗典)など。また児童文学と成人文学のボーダーレス化が進み、森絵都・伊藤たかみ・あさのあつこなど魅力的な作家が多くなっている。

子どもの本の魅力はなんといっても世界を肯定的に描いているところで、「人生は生きるに値する、大きくなるのはステキなことなんだ」とのメッセージが重要。『そしてねずみ女房は星を見た』(清水真砂子)では子どもの本の価値を子どもに寄り添うことでなく、むしろ人間の生きる価値を描くこと、そして必ず子どもの周りに成長を支える大人がいること、大人がどう生きているかを描いているかどうかが大切だという。ホロコーストの過酷な状況を読み親しんだ冒険物語と読み替え、これは物語なんだ、必ずハッピーエンドになるんだと信じ生き抜いたウーリー・オルレブの自伝的小説『砂のゲーム』で示された物語の力、魅力的な2人のティーンズがそれぞれ葛藤を抱えつつ生きていく『バッテリー』(あさのあつこ)や『空色の地図』(梨屋アリエ)、少女の自立や成長を描く『ゼバスティアンからの電話』(イリイナ・コルシュノフ)や『ポプラの秋』(湯本香樹実)を紹介された。『ねずみ女房』(ルーマ・ゴッデン)では、自分の力で星を見ることのできたねずみ女房の精神の充足について考えさせられた。終わりに文字を覚えることの意味を端的に示したポラッコの『彼の手は語り継ぐ』の「・・・自分の本当の主人は、自分がいいにはない」という言葉でお話を締めくくられた。

講演後、子どもの本やヤングアダルトの作品に必ずしも親しんでいるわけではない保護者たちから、今まで知らなかった児童・YA文学の魅力的な世界を教えてもらえてとても楽しかったとの感想が寄せられ、またさっそく紹介された本が借り出されたりもして、中学生達とともに一緒に本を楽しんでくれる保護者や教員が徐々に増えてくれるのではないかと嬉しく思った。(水越)

ひろば

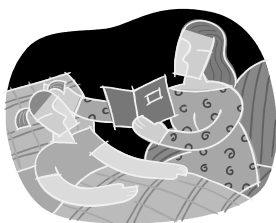
<定例会報告>

●12月21日(木)

13:00~16:30

於・中央図書館中集室

会報折込み作業~例会



出席	伊藤	片岡	久保	武井
	中山	増山	前島	桃澤

○会報について

- ・緊急集会の病院患者図書館について
- ・文学館の見学感想を...

○新年会について/1月19日6:30~新撰組にて
 /当初予定は12日。職員組合の行事と重なっていたため変更。

⇒緊急集会について話し合う。

参加者:大野(後藤)・黒田・手嶋・中山・吉岡
 ・伊藤・片岡・前島・久保・福岡・桃澤・増山

○病院患者図書館集会について(2p~参照)

1月20日(土)13:30~4:30 (12:30集合)

- ・本日までの取り組み...チラシ、集会の趣旨、集案内状)を整え、全市議にメール・他で送付。3名の議員さんより返事をいただく。
- ・今後に向けて...ロビー活動、メディア関係・講演参加者名簿から等にチラシ案内を出す。

●1月12日(金)13:00~臨時例会/(伊藤、前島、久保、片岡、中山、後藤、桃澤、増山)

・病院患者図書館集会の準備/当日配布資料等の印刷、他。

その日は朝11:00~、文学館を見学してない4人が守谷さんの案内で館内見学をする(5,6p参照)。

- ・表題「病院患者図書館がほしい！」役割分担マスコミ関係チラシ...桃澤

今までの参加者名簿にお知らせ...伊藤

議員さん36名に...増山、前島

・当日の役割分担:受付...久保、桃澤

記録...前島、片岡/垂れ幕、花...伊藤

司会...水越

挨拶、集会趣旨説明...増山

●1月定例会はお休みでした。3月は23日(金)

お知らせ

★第85回図書館建築研究会/講演会「絵本の中の図書館&静岡市の指定管理者問題」/3月14日(水)PM6:00~/発表者:草谷桂子さん(児童文学者『さびしい時間のとなり』、最新作『絵本で楽しむ孫育て』など)/文京シビックホール3

かえで文庫

「母と子のわらべうたあそび」

3月5日(月)10:00~11:30

講師...柚山明子さん

場所...かえで文庫・成瀬センター内

申込...042-792-2040 伊藤

講演会「2006年度 どの本よもうかな」

講師:広瀬恒子氏

1年間に出版された児童本の中から、
 絵本や読み物の数々を紹介してくださる

3月27日(火)10:00~12:00

中央図書館ホールで 資料費500円

問合せ:042-792-1242 増山

階会議室1/2,000円/参加希望者は3月7日(水)
 迄メールかFAXで藤原さんへ(03-3235-5387)

fujwara.atorie@nifty.com図書館建築研究会事務局

★図書館九条の会・第3回学習会/3月3日(土)

午後1:30~4:00/日本図書館協会2階研修室

講演:「安倍内閣の問題とマスコミの役割」

講師:桂敬一氏(立正大学講師)資料代:500円

主催:図書館九条の会

問合せ:toshokan9jo@yahoo.co.jp事務局(阿曾)

あとがき

2月20日(火)、生涯学習部長に呼ばれて面談。病院患者図書館のスペースは、他に転用されることなく図書館?として運用できることとなった。しかし、初期設備投資をした後は、市側は手を引き病院の独立採算の中でやることに決めたという。市議会で決まったことを、議会にも諮らずに、である。人的配置がどのようになるかは、病院側の問題でこちらでは分からない、あくまでも図書館として機能するよう生涯学習部としては支援を惜しまないつもりだ、とのこと。仮に、患者図書館に専門・専任の人的配置がなかった場合、どのような「図書館として機能する支援」を考えておられるのだろうか?1時間余にわたって市立図書館の分館として位置づけることのメリットを訴えたが、図書館に対するビジョンが噛み合わないため、水掛論となる。主権在民などどこ吹く風で上意下達的な今回の行政の変更・対応に、少々うんざり。納得しない旨を伝え、直接市長に会わせてくれるよう依頼。(M)